

歴史は形を変えて繰り返す！歴史(戦略)に学ぶ企業経営

令和時代に渋沢栄一から学ぶ その1 「近代日本経済の父」

企業一覧表			
明治(年)	年齢(歳)	当時の企業名	現在の企業名
6	33	第一国立銀行	(株)みずほ銀行
6	33	王子製紙	王子製紙(株)、日本製紙(株)
11	38	東京株式取引所	(株)東京証券取引所
12	39	東京海上保険	東京海上日動火災保険(株)
15	42	大阪紡	東洋紡(株)
18	45	日本郵船会社	日本郵船(株)
18	45	東京瓦斯会社	東京ガス(株)
20	47	帝国ホテル	(株)帝国ホテル
20	47	札幌麦酒会社	サッポロビール(株)
22	49	石川島造船所	(株)IHI
28	55	北越鉄道会社	JR東日本(株)
29	56	日本精糖会社	大日本明治製糖(株)
30	57	澁澤倉庫部	澁澤倉庫(株)
39	66	東京電力会社	東京電力HD(株)
39	66	京阪電気鉄道会社	京阪電気鉄道(株)
40	67	帝国劇場会社	東宝(株)

客の中には、多少の紙幣が必要かも知れないと考えて紙幣を両替します。その際に、渋沢栄一の肖像画が載った一万円紙幣を手にした時、「この肖像画は誰？」「渋沢栄一はどのような人物？」と質問してくるかも知れません。その質問を受けた日本人は、渋沢栄一と近代日本経済の在り方に思いを馳せる機会を与えてくれます。それでは、渋沢栄一は近代日本経済とどのような関係を持っていたのでしょうか。

今月号(その1)

- 1 令和時代と紙幣の刷新
- 2 日本で必ずみる顔
- 3 「経営の神様」による評価

次月号(その2)

- 4 名言・格言から学ぶ
- 5 平成時代に求められた経営
- 6 令和時代に求められる経営

1 令和時代と紙幣の刷新

新しい元号「令和」が発表されて8日後、令和6年から一万円札の顔が福沢諭吉から渋沢栄一(1840(天保11)年〜1931(昭和6)年)に代わることが発表されました。キャッシュレスの時代に逆行する紙幣の刷新との意見もあります。しかし、令和時代は、キャッシュレスの時代だからこそ、考えて頂きたい「意味」があるのではないかと思います。そ



3 「経営の神様」による評価

渋沢栄一は、近代日本の産業界のありとあらゆる分野に及ぶ企業約500社の設立に関与し(明治時代に設立された主な企業は、企業一覧表をご参照ください。)*、「近代日本経済の父」といわれた大企業家です。しかし、渋沢栄一は、一大財閥をつくることをしませんでした。その

2 日本で必ずみる顔

の意味は、紙幣を刷新すること自体(偽造防止対策の強化など)に意味がなく、実は紙幣の肖像画を渋沢栄一にすること自体に意味があるということです。

日本にいれば、誰もが必ずみる顔は、紙幣の肖像画です。しかし、お金を使う時、新一万円紙幣をまじまじと見て、渋沢栄一と近代日本経済の在り方に思いを馳せるなどという人は、少なくとも日本人にはほとんどいないと思います。しかし、日本に興味があつて来日した外国人観光

弁護士
曾我康久氏

●プロフィール(ソガ ヤスヒサ)
「かなち経営法律事務所」所属
事業承継ブロックコーディネーター
大学及び大学院において、法律学にのみならず経済学の視点から会社法、独占禁止法及び下請法を研究。その観点から中小企業支援に注力している。



時代に必要とされているモノ・サービスを社会に提供すべく、次から次へと起業し、その後退任していったのです。つまり、今で言うところの「リアル・アントレプレナー」(連続起業家)です。なぜ、渋沢栄一は、そのような経営方針を打ち立てたのでしょうか。
「経営の神様」ピーター・ドラッカーは、名著『マネジメント』の序文で渋沢栄一について次のように述べています。「率直に言って私は、経営の『社会的責任』について論じた歴史的人物の中で、かの偉大な明治を築いた偉大な人物の一人である渋沢栄一の右に出るものを知らない。彼は世界のだれよりも早く、経営の本質は『責任』にはかならないということを見抜いていた。」
そこで、経営の神様をして、いち早く経営の本質を見抜いていたと言わしめた渋沢栄一の「責任」を、次月号「道徳経済合一説」で紹介します。

歴史は、今を経営する者がより良い事業を展開するために、先人が遺してくれた経営の鑑(かたみ)でもあります。

* 史実は諸説があります。本文とは異なる説もあつた可能性があります。
* イラストはイメージです。